

あいらの歴史と物語

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

発行責任者：始良歴史ボランティア協会
会長 竹之下 洲 一
編集者：広報部 松下 澄行
始良市歴史民俗資料館 TEL 0995(65)1553

えびの市研修



飯野城から木崎原古戦場を望む

島津義弘と飯野城

藤崎 幸雄

飯野城は高位段丘の高台に築かれた三郭よりなる山城です。

標高250m以上に築かれた曲輪は、東西・南北共に300m程の台地を利用し、前は川内川、後は谷に囲まれた要衝の地にありました。真幸院歴代の統治者は飯野城を、治所・居城としていました。

飯野城は亀城ともいい、初代日下部重貞により永暦元年(1160)に築かれ、日下部氏は7代貞房の建武元年(1334)に没落しました。

その後、串良城主北原兼幸が、貞和元年(1345)真幸院司に任命され飯野城主となり、天文4年(1535)のころ最盛期を迎えましたが、14代兼親の永禄7年(1564)伊集院神殿へ移住しました。

義弘は、天文4年(1535)7月23日父貴久・母雪窓夫人の二男として、伊作亀丸城で生まれました。祖父日新斎は、「雄武英略をもって他に傑出す

る」と義弘を評し、また「合戦には仮令先に敗れることがあっても、後の閉じ目を肝要とすること」と義弘に教えました。

義弘は、永禄7年(1564)30歳の時、加世田より60人の家臣団と共に、真幸院領主として飯野城に入り、日向攻めの先鋒を託されました。

領国真幸院を守り抜き、元亀3年(1572)宿敵伊東義祐の大軍を、小兵をもって破滅させた「木崎原合戦」の大勝利を契機に、征旅の道が開かれました。島津氏は日向域を制圧し、祖父以来宿願だった三州統一を成し遂げ、九州の大部分を版図に収めましたが、秀吉の登場で挫折しました。この間、数々の戦功をあげた義弘の拠点となったのが「飯野城」でした。

義弘は、天正18年(1590)56歳の時、飯野城から栗野城へ移りました。飯野城在城26年間

「木崎原古戦場の跡」に佇みて・・・

”兵の骸かくせや秋の草” (正岡子規)

霧島市国分史跡研修

おおなむち 大穴持神社

梅田 眞次

大穴持神社は『延喜式』によれば、大隅国に5社しかない式内社の一つで、格式の高い神社です。祭神は、大己貴命です。別名大国主命・大穴牟



遅命ともよばれています。相殿には少彦名命、大歳神などが祀られています。

『続日本紀』によると、「社祠が宝亀9年(778)現在地より8町ばかり沖にある神造島に建てられたが、その後島が崩れ、海中に没入したため現在地に遷された」とあります。

古代人は桜島の噴火口を神として恐れしました。

その大穴と大己貴命、即ち国家経営の神大国主命を結びつけて、桜島が鎮まるようにとこの地に創建されたのが始まりと思われます。

亀ノ甲遺跡

恒見 勝則

亀ノ甲遺跡は、昭和28年(1953)国分市府中の向花小学校校地拡張作業中に発見されました。小字の亀ノ甲から亀ノ甲遺跡と呼ばれています。



三累環頭太刀

ここから出土したのは、太刀6本、その中の1本は柄頭にC型の輪を3個つなげた三累環頭太刀で、県内では唯一の出土品です。また、取っ手のある平瓶は8世紀の「律令的土器様式」で、国府・郡衙・大寺院跡などからしか出土しないそうです。

大隅国設置に反抗する隼人たちは、国府役人たちを血祭にし、亀ノ甲遺跡やその周辺に埋葬しました。出土した三累環頭太刀や平瓶は隼人の戦いを語り、国司たちの最後の場を明らかにしてくれているのかもしれませんが。

おひら 於平さまの墓

吉田 茂子



上井城麓の墓地の一角に、島津家家紋入りで、宝篋印塔形式の「於平さまの墓」といわれている墓があります。

於平は、16代太守島津義久の長女として生まれ育ちました。やがて薩州家義虎に嫁ぎ5人の子どもを授かりましたが、義虎亡き後忠辰の時、御家断絶の憂き目にあい親元(義久)に返されました。

その後、屋敷をあてがわれ、身を隠すように余生を過ごし、53歳で没しました。

義久は於平のために、屋敷跡に「淵龍院」を建てて於平の霊を祀りました。

その義久も、8年後舞鶴城で79歳の生涯を閉じました。義久亡き後、舞鶴城主となった三女亀寿は、私領に「徳持庵」を興し、父の位牌と遺骨を安置し菩提寺としました。

また上井城の南側には、縄文時代早期・前期の「平椀遺跡」があり、平椀式土器と呼ばれる県内屈指の土器が発見されています。

大隅国府跡

宮内 伸一



大宝2年(702)に日向国から薩摩国が分かれ、11年後の和銅6

年(713)4月には、日向国から肝坏・曾於・大隅・始羅の四郡が分かれて、大隅国が建国されました。

最初は四郡でしたが、やがて曾於郡から桑原郡が、更に天平勝宝7年(755)5月には、桑原郡から菱刈郡が独立し、六郡になりました。

薩摩国同様、隼人たちの反対を押し切って設置された大隅国ですが、その国府はどこに置かれたのでしょうか。『三国名勝図会』や『鹿児島県史』などでは、国分の府中にあったと書かれています。『国分郷土誌』は、「府中説」と「真孝説」を載せていますが、いずれも確証はなく発掘調査をまつ以外に結論は出ないようです。

しかしながら、守公(祓戸)神社の存在や亀ノ甲遺跡からの出土品、また気色の杜遺跡から出土した仮名墨書土器などによって、現在は「府中説」が有力だと考えられています。

とがみ 止上神社

永富 巖

止上神社は霧島市の手籠川流域にあります。



「贈於郡惣鎮守六社大権現」と称され、祭神は彦火火出見尊、豊玉姫命など六座で、創建は不詳です。

言い伝えによると、「景行天皇の御宇、日向の隼人を征伐されたとき、六所権現の霊神が大鷹となり味方し、たちまち平定できたため、その神霊をあがめ祭った」といいます。社殿後方の尾群山に鎮座され、山を神体として拝んでいました。その後、今の場所に遷座されました。

止上神社には、古文書や県内最多の54の神面が残り、霧島市立国分郷土館に展示されています。記銘入りの最古の面は明応6年(1497)です。

止上神社は、平安末期から戦国時代の初期には税所氏の、税所氏没落後は、島津氏の保護を受け、大きな地位を占めていたと思われます。

しんのう 真応上人の石室

佐土原 保子

国分金剛寺跡境内に、「お上人様」を祀った堂があります。「お上人様」とは、金剛寺10代住職真応上人のことです。

上人は鹿児島出身で、7歳ですでに経を読み、寛



永10年(1633)に出家し、近江・京都で修行し、伊勢の住職を勤めた後、寛文11年(1671)に薩摩に帰り、金剛寺の住職を20年間勤めました。

元禄5年(1692)9月74歳の時に、1m四方の石室を造り、木食草衣の身となりました。午前中は読経と仏像の彫刻、夜は念仏を唱え、当寺の守護を祈る日々を送りました。

入室してから7年後、元禄11年(1698)9月21日80歳をもって石室内で入寂しました。遺体は今も石室の中にあるといわれています。

石室内の木食草衣の修行で、病気もせず虫もつかない状態であったといわれています。

遠方からもその徳を慕って人々が礼拝に訪れ、香華が絶えることがありません。

加治木郷土館所蔵品紹介

かぼちゃ型 鉄瓶



竹之下 洲 一
加治木は中世から、加治木銭の鑄造や鍋釜類の製造地として有名でした。特に幕末には、日用品や農具などが盛

んに作られました。

写真の鉄瓶は、幕末から明治にかけて活躍した、鑄造師川畑道仁かわばたどうじんの代表的作品です。

川畑道仁は、天保7年(1836)加治木に生まれ、島津斉彬の命で、江戸の西村道也に鑄物を学び、師に「我に勝る天下一の鑄物師」と、賞賛された人物です。帰郷後は磯の島津邸で、廃藩後は加治木に帰り、多くの鑄物製作にかかりました。

加治木郷土館の鉄瓶は、見た目も美しく実用的で、使いやすさが高く評価されています。江戸での修行で獲得した高度な技術が、諸作品の細部に生かされているのです。

道仁は、明治35年(1902)67歳で死去、墓は東楽寺墓地の一隅にあります。

始良歴史ボランティア協会活動報告

- | | |
|----------|--|
| 5/7(木) | 重富山野・帖佐松原塩田ガイド
(研修部・企画部・広報部) |
| 5/15(金) | 始良歴史同好会 蒲生史跡めぐり |
| 6/11(木) | 研修視察「えびの市」(研修部) |
| 6/18(木) | 広報誌25号発行 (広報部) |
| 9/10(木) | 研修視察 霧島市(国分地区)
(研修部) |
| 10/24(土) | 重富小学校 島津義弘を訪ねて
帖佐館跡・加治木館跡・徳重神社
(日置市) |
| 10/31(土) | 国民文化祭2015 かごしま
「歩き・み・ふれる歴史の道」
(全員) |
| 11/12(木) | 広報誌26号発行 (広報部) |

始郷(あいきょう)

「日本」の国名が決まった日

橘木 雅晴

数年前、重富小学校の前で日本という国の名前は、いつ誰が名付けたのかと初老の男性に尋ねられて、返答に窮してしまいました。

以前の私を含め日本人の多くはその答えを知らないまま、日本に暮らしています。正解は持統天皇により飛鳥浄御原令が施行された持統元年(689)説と、大宝律令が完成した大宝元年(701)説がありますが確定していません。

対外的には大宝2年(702)に遣唐使の「粟田真人」が、当時の周の皇帝・則天武后そくてんぶこうに対して「日本」の使いであると述べて承認されたのが最初といわれています。

それ以前の遣隋使の時代は、倭国王の使いといっており、「日本人」ではなく「倭人」としていました。

あの聖徳太子は、日出づる国の人でしたが、日本人ではなかったとは驚きです。

歴史用語解説

竹之下 洲 一

『真幸院』日向国の西南端に位置し、諸県郡もろかたぐんの一部で、現在の宮崎県えびの市にあたる。近世の地誌『真幸院記』によれば、えびの市の飯野・加久藤・吉田、鹿児島吉松・栗野としている。

南九州四か国(日向・大隅・薩摩・肥後)の接点であり、古来四か国の間の人的交流が盛んで、また広域的政争の舞台となった。またこの地域は、川内川の上流域にあたる。

編集後記

先日から鹿児島県内各地で、第30回国民文化祭が開催されています。

私共の始良市でも歴史にまつわる行事が予定され、特に10月31日の「歩き・み・ふれる歴史の道」には、私共、会員も参加し白銀坂及びその周辺、重富の脇元浦町などのガイドさせていただきました。

ご参加いただいた皆様には、始良市の歴史の一端をご覧いただき少しでもご理解いただけたのではないかと思います。

ありがとうございました。